

🤔 当時の振り返り 🤔

特別養護老人ホーム ロング・ライフ～当時の振り返り

【目的】

- ・介護ロボット等のICT機器を導入し業務の効率化が図れたものの、**効果が分かりづらかったため。**
- ・業務効率化に伴い生じた時間の有効的な活用方法などの協議を行い、**利用者ケアに活かしていきたい。**

【過程】

- ・気づきシートによる課題の抽出を行い分析を行った結果、事業所として【見守り機器の効果的な運用】を取り組み内容とした。
- ・機器管理リスト、転倒・転落アセスメントシート、手順書等を作成し、機器を使用する際のルール決めを行った。

【結果】

- ・見守り機器を**適切に使用**していくことで、職員のムダな動きが減り、**身体的負担の軽減**に繋がった。
- ・**機器に対する理解が進み**、リスク管理の観点からも職員の**安心感**が得られたことがアンケートから伺えた。

特別養護老人ホーム ほほえみ～当時の振り返り

【目的】

センサーやコールの重なりが多く、**居室内の状況が確認できないことによる事故リスクからの不安感や緊張・訪室回数などを機器の導入により減らし職員の身体的・精神的負担の軽減につなげる。**

【過程】

課題の見える化から機器のデモを行い選定。リスクの洗い出しを基に使用時のルール作成。カメラ使用に際してのアセスメントシートの作成。
通信環境の整備や導入時の職員にむけた説明会実施。

【結果】

巡回時だけではわからなかった睡眠の様子への気づきや通知機能やカメラの活用により**安心感が生まれ焦らず対応ができるようになった。**

入眠や覚醒状態から排泄介助開始の**タイミングや流れを組み立てやすくなつた**などの声があがつた。

グループホームリブレ松川～当時の振り返り

【目的】

課題として記録を行う時間が不足していた。介護記録ソフトを導入することで記録を効率化し、記録時間の削減や記入の漏れ・無駄を少なくし、情報共有の不足や無駄が多さによって生じていた人手不足感の改善を図る。

【過程】

課題の洗い出しにより記録に関する問題が明確になった。記録ソフト導入に向け、現行の記録表を整理して重複を可視化し、紙で残す記録とソフトへ移行する記録について管理者・各リーダーで協議した。

【結果】

- ①タブレットでの記録に不慣れな年配の職員もいたが、操作に慣れた職員が教え合い、マニュアルの確認しながら声を掛け合って記録を行えていた。
- ②重複した記録の記入がなくなり、記録にかかる時間が大幅に減少した。
- ③紙媒体よりも、記録の経過や見直しが不足してしまいがちになる部分があり ソフトから紙に戻してしまった記録もあった。

特別養護老人ホーム 相馬ホーム～当時の振り返り

【目的】

- ・無駄な訪室を減らし利用者様の安眠と、職員の負担軽減を目的とし見守り機器を導入したが、**使いこなすこ**とができるおらず、使用を続いている内に不必要な通知など負担に感じる部分が多くなってきた。このような部分の改善を図る。

【過程】

- ・改善活動の準備、課題の把握、課題の見える化→実行計画の策定
- ・改善活動（通信環境の改善、評価基準の作成→評価 訪室回数、職員の歩数、心理的負担アンケート、施設職員用の手順書・マニュアル作成、入居者個人毎の訪室タイミングの統一など）
- ・改善活動の振り返りと試験運用の開始。

【結果】

- ・見守り機器の**運用改善に繋がり**、職員の身体的・精神的負担が軽減された。
- ・多数の職員が**適切な設定・使用**ができるようになった。
- ・課題に対する原因分析の方法、改善に向けての数値目標を設定し、「見える化」すること、**取り組みをチー**ムで行うことの**重要性**を感じた。

介護老人保健施設ケアホームやまと～当時の振り返り

【目的】

慢性的な人員不足などの課題があり、見守り不足が原因で事故リスクが高いという問題が発生。その結果利用者様・ご家族様、職員の不安に影響が出ている為、見守り支援機器を導入することで、利用者様の安全面と職員の負担軽減を図ることができないかと思い、当モデル施設事業へ申請をした。

【過程】

- 改善活動を検討・実行に移すための体制づくり（プロジェクトチームの立ち上げ・役割分担の決定）
- 介護介護現場での課題把握（因果関係図づくり）
- ロボット導入の効果を把握するための定量的な仮説の設定（KPIの設定）
- 介護ロボット導入後の業務の流れの検討

【結果】

訪室回数の減少につながったことと、見守りリスクが高い利用者様の覚醒、睡眠、離床のパターンの把握ができ、事故の予防・対策がより的確にできた。職員も機器の導入目的や使用方法を十分に理解し、機器を導入前後にとったアンケートでは機器を使用することで、肉体的・精神的負担を軽減することにつながった。

特別養護老人ホーム エルピス森宿～当時の振り返り

【目的】

開所から1年余りの摸索時期であった私たちの施設としては、生産性向上の手法を学ぶ入口を作るほか、取組みを通じて「施設の土台を固めながら働きやすい環境づくり」「リーダーシップを持てる職員を育てる」ことも目指したいと願っていました。

【過程】

奮闘エピソードとしては、チームメンバーは幅広く経験を持つ人で構成されているため「私はこうしてきた」「昔はそうだった」の経験談が、時には押し付けになり、自由な意見が出にくいためや新しいアイデアが出にくい場面がありました。

【結果】

伴走支援の方が加わったことで、考え方や具体例を示してもらえ、意見が広がりました。「使う」or「使わない」の結果に急がず、因果関係図で「課題を見る化」したことでの、様々な意見も出せるようになりチームとしてまとまりも深まりました。そして成果データは、目に見えた取組みの形として共有でき、事実を見つめ私たち自身の思い込みを見直すきっかけとなりました。

介護老人保健施設ニコニコリハビリ～当時の振り返り

【目的】

生産性向上推進委員会が出来る→活動にあたって何をするのか、どの様な福祉機器を導入すべきなのか、それらの考え方や進め方を知り、実践していくようになる為にモデル事業に応募した。

【過程】

気づきシートの配布により課題を見る化、見守り支援機器の導入を決定。

何社かデモ導入も行い機器を選定した。機器決定後、運用方法等のマニュアルを整備し、周知を図った。

【結果】

課題に対して「見守りライフ」を導入。カメラを併用することでセンサー使用者への訪室回数が低下 = 職員の無駄な動きが減少、負担が軽減している。

センサー = 事故予防という視点の他、行動把握が難しい方の観察、対応方法の検討にも使用したいなど多方面からの意識が芽生えてきている。

 **自走をはじめて** 

特別養護老人ホーム ロング・ライフ～自走をはじめて

【現場に根付かせる工夫】

- ・職員に対し、事業所勉強会内の施設長・当時の事務局長・次長による法人・事業所理念の浸透。
- ・事業所の連絡手段として、グループLINEの作成、運用ルールの明確化を行い、スムーズな周知方法の確立。

【あたらしくやったこと・横展開】

- ・どの職員でも機器が使用できるように、見守り機器のマニュアルを作成。
- ・職員の感覚で判断していた見守り機器の使用対象利用者を、より明確にするためのアセスメントシートの作成。

【組織の雰囲気や文化がどう変わったか】

- ・取り組み（改善）に対して後ろ向きな職員・意見が多かったが、**数値として改善が図れていることが分かる**と、前向きな意見に変化していった。
- ・業務改善やICT導入に関して興味を持ち、**職員からの提案事項が増えた。**

特別養護老人ホーム ほほえみ～自走をはじめて

【現場に根付かせる工夫】

- ・機器の導入目的を職員に理解してもらうことが第一
- ・抵抗感を抱く職員もいたが、まずは簡単な説明と機能を使用してもらい便利なものだと思ってもらう。各部門・フロアに委員を配置し疑問点は共有しフィードバックするサイクルを作る。

【あたらしくやったこと・横展開】

- ・機器使用に関しての習熟度を把握するアンケートの実施。
- ・使用していく中で機器のトラブルが多く聞かれた為、委員以外でも対応できるようトラブルシューティングシートを作成。カメラ使用者一覧表やカメラ使用者への定期的な再評価等の管理は委員から各ユニットへ移行した。
- ・対象者に心拍数や、呼吸数の異常値の設定をした。

【組織の雰囲気や文化がどう変わったか】

機器に対して否定的や不安の声も当初は多かったが、現在は「**無くては不安だ、困る**」の声がほとんどになつた。新たな取り組みに対しても**前向きに協力してくれる雰囲気ができた**。

グループホームリブレ松川～自走をはじめて

【現場に根付かせる工夫】

- ①特に操作慣れをしていない職員に一旦マニュアルを確認してもらしながら実際に操作してもらい、**分かりやすいマニュアル作り**を行った。
- ②職員同士が声を掛け合い、**分からぬ所を教え合いながら記録の記入**を進めていった。

【あたらしくやったこと・横展開】

グループホームでの成果があったことから、**リブレ松川の6事業所**（看護小規模多機能・サテライト・定期巡回・デイサービス・居宅介護・サービス付き高齢者向け住宅）の職員が前向きに考え始めた。令和7年度にリブレ松川全体としてICT導入し生産性向上を目指し、働きやすい職場環境を整備している。

【組織の雰囲気や文化がどう変わったか】

- ①職員同士、お互いに声を掛け合うことが増え**職場の雰囲気が明るくなつた**。
- ②タブレット操作に慣れた若い職員が年配の職員に操作方法を教えたり活躍の場が増えたことで、**仕事に対する意欲や自信**に繋がつたのではないかと思う。

特別養護老人ホーム 相馬ホーム～自走をはじめて

【現場に根付かせる工夫】

- ・特定の職員ではなく、**携わる全職員に当事者意識を持ってもらう。**
- ・特定の職員が一定の役割を担い続けるのではなく、役割を持ち回りとし、それぞれの役割を担える職員を増やしていく。
- ・定期的な話し合いの機会を作る。

【あたらしくやったこと・横展開】

- ・別メーカーの見守り機器のデモ、モニターを行った。将来的にさらにICT機器を導入するにあたって、それぞれのメーカーと機器に対し何が優れているか、**相馬ホームとして何を重要視するのか等の比較ができるようになった。**

【組織の雰囲気や文化がどう変わったか】

- ・新しい仕組みや機器への**心理的ハードルが下がった。**
- ・不具合発生時に**改善策を探る姿勢**が育ち、効率的な活用を意識できた。
- ・役割分担により職員全体の理解が深まり、アイデアや気付き、**工夫を共有する機会**が増えた。

介護老人保健施設ケアホームやまと～自走をはじめて

【現場に根付かせる工夫】

生産性向上委員会を毎月開催し、タイムリーに現在の課題・問題点について改善策を考え、職員への周知共有を継続中→モデル事業での行った取り組みが活かされている（課題の見える化や深掘りetc.）

【あたらしくやったこと・横展開】

- ・インカム→各階・部署でグループ分けを実践

導入当初は全職員1グループで通話していたが、情報過多の為グループ分けをし、情報のスマート化構築。

- ・眠りスキャン→当初、離床・起き上がり通知のみだったが全利用者対象に、呼吸心拍の通知を付けた（急変の方への対応を速やかに発見、対応できるようにする）

【組織の雰囲気や文化がどう変わったか】

- ・情報伝達は早くなった（インカムを使用する事で）

- ・職員間コミュニケーションが多くなった

- ・機器を使用する想定で、ルールや対応方法など機器を使用する意識を持つようになった。（機器を使いたがらない職員はあまりおらず、使用することを前提に業務を行う事ができている）

特別養護老人ホーム エルピス森宿～自走をはじめて

【現場に根付かせる工夫】

県ICT導入モデル事業所として取り組んだ成果を、動画で視聴してもらい、興味を持ってもらいました。またチームメンバーとユニットリーダーを中心に着用の声掛けや装着方法の指導を継続し、全ユニット全職員対象で本格的導入に取り組みました。

【あたらしくやったこと・横展開】

3か月後の振り返りで「肉体的な痛みや重さによる疲労の訴え」があり、利用時間や装着回数の改善を行いましたが、計画の練り直しを行い、全対象の使用は見送り、限定的でも続けようと判断。他事業所への配布展開や必要な職員に絞り込み、現場にあった使い方を継続しています。

【組織の雰囲気や文化がどう変わったか】

指示命令中心だったスタイルから、**経営層も職員の意見を取り入れる姿勢へと変わってきている**ほか、職員は、“他部署の話で関係ない”という意識が和らぎ、**協力の雰囲気が広がっています。**

介護老人保健施設ニコニコリハビリ～自走をはじめて

【現場に根付かせる工夫】

利用者の状況に合わせて自然と見守り機器の選択肢の中に入っている。

【あたらしくやったこと・横展開】

・見守りライフ10台、カメラ5台でスタート、カメラの台数を増やして欲しいという声もあり購入を検討。ただ、施設に見守りライフがあるのかという意見もあったので、併せて様々な福祉機器の情報を知る為に他社の見守り機器もデモで借りる予定を組んだり、どんな福祉機器があるのかを知る機会を設定した。

【組織の雰囲気や文化がどう変わったか】

雰囲気や文化の大きな変化はない。だが、従来のセンサーでは都度訪室していた利用者に対して、見守りライフとカメラを設置し訪室回数を減らすことが出来た為、**特に夜勤帯の職員の身体的負担**は軽減できた。

- ・また、訪室回数が減った事で**対象者や同室者の睡眠を妨げるといった事も軽減**できていると感じている。
- ・福祉機器導入に対して、前向きな意見が聞かれるようになった。

◆現在の状況～課題と目標◆

特別養護老人ホーム ロング・ライフ～現在の状況

【現在の課題】

- ・どういったICT機器が自分たちの事業所に合っているのか選定に迷う時があるため、機器メーカーや福祉用具会社からの情報収集を継続的に行う必要がある。
- ・法人設立から35年が経過し、施設のハード面での課題が多くある。浴室・トイレに関しては来年度改修予定となっているため利用者様・職員共に安心して過ごせる環境を提案していく。

【今後の目標】

- ・従来型施設のため、ユニット型に比べると個別に利用者様と関わる時間が少ない。業務改善や生産性向上に取り組み、時間の確保を行っていきたい。
- ・見守り機器の全床導入や職員間の連携強化を目的としてインカムの導入を行い、**生産性向上加算Ⅰの算定を目指す**。結果として、**離職率の減少・職員が働きやすい職場環境に繋げていきたい**。

特別養護老人ホーム ほほえみ～現在の状況

【現在の課題】

前スライドに記載した呼吸・心拍通知や睡眠レポートを活用した取り組みなど活用したい機能はあるが、通知が鳴りすぎる(適正ではない?)事や睡眠レポートを基に行いたい日中の活動まで人員が回せないなど、展開できておらず**当初の目的である職員の身体的・精神的負担の軽減に貢献できていないのではないか。**できるに越したことはないが**今行おうとしている活用が今すべきなのか？逆に負担になっていないか。**

【今後の目標】

当初の目的に立ち返ってカメラや通知機能を活かし職員がもっと直接的に身体的・精神的負担が軽減されたと感じてもらえるよう、業務効率・費用削減の面からだけでなく**モチベーションの面からも生産性の向上にアップ**ローチしていきたい。

グループホームリブレ松川～現在の状況

【現在の課題】

- ①記録の見直しの仕方がタブレットでは分かりにくい・見返しにくい
- ②特に医療関係の記録に関しては「いつから体調が悪く、どのように医師に相談を行ったのか、家族への連絡などはどうなっているのか」という時系列がタブレットの記録では分かりにくく、「不便・職員全員が把握しにくい」という問題点があり、紙媒体での記録に戻して対応している。
- ③2ユニット間で記録の方法について共有できていない部分があり、統一した記録方法を管理者・リーダー間で共有し職員全員に周知していく必要がある。

【今後の目標】

- ①タブレットに記入する記録と、紙媒体で残す記録の仕分け。
- ②どのようにしたら職員全員が記録の見直しを行いやすくなるかを管理者・リーダーが主体となって話し合う。
- ③全職員に周知し統一した記録の記入・確認を行っていく。

特別養護老人ホーム 相馬ホーム～現在の状況

【現在の課題】

- ・改善できた例や課題を蓄積しマニュアル・手順書を隨時更新する。
- ・利用者様それぞれの現状に合う通知設定や訪室するタイミングの検討と更新を隨時行う。
- ・見守り機器を導入している部署の全員が前述した役割をまだ一巡できていない。今後も役割分担を回しそれぞれの習熟度を向上する。※役割＝統括責任者、業者との連絡担当、マニュアル・手順書改定担当。
- ・同時に通知があった場合などへ対応するための優先度を鑑みた見守りセンサー設置フロア全体のマニュアルを作成する。

【今後の目標】

- ・現在、見守り機器を導入しているのは当施設の特定の部署、特定の居室に限られている。今後新たな見守り機器を導入する部署職員へ効率的に使用するための動き方や考え方を伝達し、**協力して部署全体のICT機器への苦手意識を無くす。**
- ・ICT機器に限らず、**さまざまな課題に対しPDCAサイクルを回し業務効率化と職員の負担軽減に繋げる。**

介護老人保健施設ケアホームやまと～現在の状況

【現在の課題】

- ・機器の不具合で使用出来ない時に不安が見られる。 (機器への依存感)
- ・機器を使用する入所者が増えることで通知、訪室回数も増加し導入以前に負担感が戻っている傾向がある。
- ・機器の性能を活かしきれていない (睡眠のデータの活用など)

【今後の目標】

- ・**災害などで機器に不具合が生じた際の対応方法**などの検討 (職員間で周知・対応していく)
- ・入所者様と機器の通知機能の設定について、機器や通知設定をする以外の対応方法を模索しながら、**機器頼りにならないように評価基準を再設定**し安心安全な環境整備に繋げていきたい

特別養護老人ホーム エルピス森宿～現在の状況

【現在の課題】

気づきシートを整理し、次の課題を洗い出し「テクノロジー機器の導入を軸にした課題」と「機器以外に関する課題」に分け、新年度新メンバーで取り組みを始めています。体制が新しいため委員会を開く際には、生産性向上の目的や委員会の意義を理解しながらチームをまとめているつもりですが、**開催回数や参加メンバーが毎回変わることがあり、より安定した進め方や準備を模索している段階**で、もっぱらの課題と感じています。

【今後の目標】

今、課題抽出中の1つ機器以外に関する課題では、「**職員ファースト**」をキーワードになぜなぜ分析に取り組んでいます。サービスの質の確保にどのように向き合うか時間のかかる取組みですが、今後施設では、**生産性向上推進体制加算の取得を予定**しております。これらの活動が提出データ（実績報告書）に直結していることを意識し、**加算要件の理解も並行に深めながら委員会を開催できるよう取り掛かりたい**と思います。

介護老人保健施設ニコニコリハビリ～現在の状況

【現在の課題】

- ・設置時比較的負担は少ないだろうと思っていたが、ベッドの車輪が正確に乗っていないとずっとエラーが出たり、利用者を変更した際の設定がスムーズにいかない事が多々ある。
- ・メンテナンスやエラーの際、一時的に使用不可になる事がある。センサーの使用に依存的な傾向がある為、通知が来ない際の対応に苦慮している。今後、センサー設置に至る前の段階の見守り、考え方の認識を改めていく必要があると感じている。
- ・既存センサーの受信器が別にある為、2台のデバイスを持ち歩かなくてはいけない場面があり、携帯忘れや職員が混乱、負担に感じる事がある。
- ・施設にある一部のベッドの足部分（低床タイプの物）とセンサーの規格が合わず使用できない物があった。

【今後の目標】

業務改善や生産性向上にスタッフの負担軽減に向けて、**見守り機器やセンサーの導入を検討していく。**